

細則様式第4号

論文審査及び最終試験結果報告書			
氏名	工藤 千賀子		
入学年度	平成 29 年度	学籍番号	17GG601
領域	看護学	分野	
審査委員	主査	石川 玲	
	副査	木立 るり子	
	副査	高見 彰淑	
	副査	工藤 せい子	

論文題目：患者のセクシュアリティに対する看護者の態度と行動に関する研究

審査結果要旨：本研究は、患者の性的言動には看護者の態度と行動も関係しているという視点に立ち、看護者の性役割態度（社会的な性役割意識）と倫理的行動の特徴を検討した研究である。

研究Ⅰでは、療養介護病棟で排泄や洗体等に介助を受けながら生活している筋ジストロフィー患者のケアを担当した経験のある全国26施設の看護師と介護者の性役割態度と倫理的行動を「平等主義的性役割態度スケール短縮版」（以下、SESRA-S）と「倫理的行動尺度」を用いて郵送質問紙法で調査した。157名から回答があり（回収率36%）、看護師、介護者ともSESRA-Sと倫理的行動の得点に弱い正の相関がみられ、性役割態度と関係する倫理的行動の下位尺度として看護師では「自律尊重」、介護士では「無危害善行」が選択され、看護師と介護者で倫理的行動を生起する態度に一部違いが見られることが明らかになった。

研究Ⅱでは、東北6県34施設の一般病棟に勤務する看護師を対象に患者によるセクハラの実態を調べると共に、研究Ⅰと同じ尺度を用いたアンケート調査を行い、840人から回答を得た（回収率45%）。セクハラを体験した割合は63%であった。セクハラ体験の有無に関わらずSESRA-Sと倫理的行動の得点に弱い正の相関がみられ、どちらも年齢が高いほど得点が高いこと、セクハラ体験の有無は性別、年齢、職種と関係することが明らかになった。

患者の性的言動に対する看護者の性役割態度と倫理的行動の特徴について検討した報告はこれまでになく、研究テーマは独創的で新しい知見も明らかになった。学位審査論文には研究テーマにかかわる研究が系統的かつ過不足なく記述されており、最終試験では研究内容の意義、結果について十分理解していることが示され、研究を遂行できる能力と倫理観を十分に身につけていることが確認された。以上より、本論文は博士論文として十分な内容を有すると判定した。

最終試験 令和 2 年 1 月 16 日

試験の結果は 合格 ・ 不合格 と判定する。